

文化・交流—新しい地域創造

ロゼ

文化情報誌 ロゼ
Art information of Fuji city
 Culture Magazine ROSE
 Vol.8 SUMMER 1994
 夏号



Vol. 8



ロゼ

富士市文化情報誌 ロゼ 1994年7月発行(第8号)
 発行 財富士市文化振興財団 〒416富士市蓼原1307番地の8 TEL(0545)60-2510(代)
 企画・編集・制作 財富士市文化振興財団事業課広報係 ㈱エイエイビー アタゴオル



お客さまへ
8月9日に
必ずお会いしたい
Kinomi Nana
1994.6.26.

ステージに立って
お客様と触れ合うと、
いつも輝いていた
という気持ちになります。



本格的エンターテイメントステージを富士市へこの願いが来る八月、ロゼシアターで実現することになりました。

出し物は木の実ナナ主演の「ステッピング・アウト」、この作品は一九八四年九月よりロンドンで二年半のロングランヒット、その後ブロードウェイで上演、さらにライザ・ミネリ主演で映画化もされました。

この和製タップダンス劇は歌って踊れる木の実ナナを始め河内桃子、柴俊夫、高木鳩子、森公美子…等有名スターが大挙して出演するステージで、県内ではロゼシアターだけの独占公演です。

本誌では、六月十八日からの東京公演で大張切りの木の実ナナさんを東京湾ウォーターフロントのアートスフィア・ホールに訪ねました。

八月九日に「ステッピング・アウト」の公演でロゼシアターに来ていただく訳ですがチケットの売れ行きが大変好調でもうすでに完売間近という状態で嬉しい悲鳴をあげています。これも木の実ナナさんをはじめ、出演者の皆さんに対するお客様の期待がとても高いからだと思うんですが富士市に来られるのは初めてですか。

「うわぁ…それはうれしいですね…静岡方面には何度も行っていますが富士市は初めてなんです。そうですか…富士山のある劇場でやれるのは楽しみです。遠いんですが、私の家からも富士山が見えるんですよ。四季折々の姿が墨絵のようで、何故か好きなんです。富士山を見ていると日本一にならなきゃいけないかなんて思うんです…。」

ところで、この「ステッピング・アウト」、ミュージカルと聞いていたんですが、ちょっと趣が違うんですね。

「これはミュージカルというよりはむしろ、私たちはタップダンス劇と言っているんですけど、ごく普通のお芝居で、タップダンス教室の中の人間模様を描くまったくのストレートプレイです。でもある意味では、お芝居好き、ミュージカル好き、タップダンス好きな人と、いろんな方が楽しんで見ていただける総合劇だと言えますね。このお芝居は約二時間半という貴重な時間をいただく訳ですが、人間、機械がいい時には歌も歌うし踊りも踊りますよね…観客の皆さんもそんな構えなしの状態でお芝居と一体になって思い切り楽しんで欲しいんです。このドラマの舞台はロンドンなんですけれど、ナナ達がやると日本で生まれたお話なんだと思ってもらいたいし、とにかく元気が出る劇だから見て!!と言いたいですね。」

私達、木の実ナナさんというミュージカル女優というイメージが強いんですが、この横なシリアスドラマ的なものは…

「もちろんミュージカルもドラマチックなお芝居もやりますし、シエクスピアとかシキを聴くと、どんなに疲れていても火のついたようにピシッとなっちゃう。この魔力みたいなものは自分でも信じられないぐらいです。健康面では、今ダイエットブームですけど、ダイエットなんかしてたらやっつけられない。よく食べてよく寝ることで。意外かも知れませんが、病気やケガはよくしますよ。ずい分体にメスも入ってますし…、ただ手術や病気をした時の気持ちはよく覚えてますから、その分健康な時には舞台で頑張ろうと思えます。こうやって舞台に立っていても、この体とキレイな脚をくれた両親には本当に感謝していますし、健康で無事に舞台がつとめ

リアスなものいろいろとやらせていただいています。この抑えた先生役みたいなものは初めてですね。タップダンスの教室を通して、それぞれの生徒の悩み事などにイライラしながら自分を抑え、最後には爆発するという展開の仕方にも意表をついた所があり、とても良く出来たお芝居ですよ。」

もう一つ、木の実ナナさんというと、いつも明るくて、今迄病気のニュースにも接しませんし、フアイトのかたまりのように見えるんですが、普段の生活の様子とか、これから先のこととかは…

「私ってとてもさびしがり屋なんです。だから元気の源はお客様なんです。テレビや映画と違って直接お客様がいるステージに立



って、皆さんに楽しんでいただいで、最後に大きな拍手を聴くことで元気を貰っちゃうみたいなの。それと公演中の凄い緊張感…時折こんなに体に悪いことってあるのかしらと思えます…でも、次に沢山のお客様が待っていてくださるといこと、それだけで明日へのステージの糧になるんです。

いい作品にめぐり合い、舞台上の上での一つ一つの事、一秒一秒が過ぎて行くことがとても残酷でもあり、逆に楽しみでもあります。いつも輝いていなくてはいけなくなって思ってますから。それにあまり先のこととは考えないようにしているんです。歳は自然にといいくものだし、今回もこの作品に出会い、挑戦できたことも私の年齢に合っているのかなとも思います。不思議なことに客席のざわめ

られるよう神に祈りながら精一杯やっつけ行くことが一番ですね。今までやって来た作品も、女性として毎回毎回違ういろいろなタイプの役をやらせて貰っていますし、シエクスピアを除けば全部がオリジナル作品で、今回が初の外国作品の訳物なんです。それを私達出演者やスタッフが自分自身のものとしてどう表現しているかということも一つの見所だと思います。」

八月九日、ロゼシアターでの公演、これこそステージの醍醐味だ!!というものを存分に味わうことができると思っています。今日はお忙しい中どうもありがとうございます。



●木の実ナナ(まきのみなな)女優・プロファイラー
東京都墨田区向島出身。一九六二年「ホイホイミュージック・スクール」(NTV)の司会デビュー。七二年「アプローズ」で本格的にミュージカルの道に進む。舞台活動の他「オレンジ」から「愛」(CX)、「たけしくん、ハイ」(NHK)などテレビドラマや映画、レコード等で幅広く活躍中。主な主演作品「ジョーガール」「イカれた主婦」「阿(OKUN)国」他。

KINOMI NANA

STEPPING OUT STORY

by RICHARD HARRIS



ロンドンの片田舎の小さなタップ・ダンス教室では、ヘタなタップを打ち鳴らす8人(男1女7)の生徒達に、今日も今日とて教師のメイビス・ターナーは四苦八苦。かつて、プロのダンサーとして華やかなスポットライトと喝采を浴びたメイビスにとって、町のタップ・ダンス教室は、あまりにもささやかな世界だった。そんなある日、メイビスのクラスが町のチャリティー公演で「タップ・ダンスショー」に参加することになってしまった!? 思いがけなく大きな目標を得た彼らは、少しずつ心を通わせ、これまでの人生で感じることでできなかった喜びと出会う。いよいよ今日は本番。不安と緊張に身を硬くする8人のメンバーとメイビス。そして、ついに幕は上がった。勇気と目標を得た彼らは、新たな人生に、今ステッピング・アウト!!

これを機会に、今後のタピストリー作家の動向に注目して下さい。

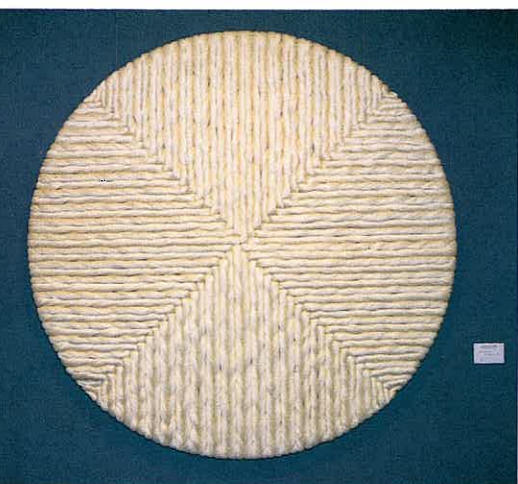
by 佛織絵
年に一回、東京の草月会館で日本の作家と海外からの招待作家10名程度を含めたタピストリー展を開催していますが、各作家が個展を開くことはあっても、日本の大きな都市でもこれだけの数のタピストリーを集めた展覧会はほとんどないと言えます。今回ここに登場していただいた作家の皆さんは全国的にも有名で、海外でも通用するトップクラスの人達と言えます。作品として展示される機会の少ないタピストリーですから、このロゼシアターに作家として出品できることの嬉しさを皆さん感じているようですし、すべてが最新作で、与えられたスペースを目一杯生かした優れた作品ばかりで、とても感激しています。



▲オープニング初日のテープカット

現代作家 タピストリー展
平成6年6月28日火～7月10日日(最終日は5時終了)
入場料無料

主催 財団法人 富士文化振興財団
後援 NHK静岡放送局 静岡新聞社 SCS静岡放送
協力 社団法人 日本織染美術工芸協会 社団法人 日本インテリアデザイナー協会 社団法人 日本クラフトデザイン協会



▲ガレリア壁面タピストリーの作者(シーラ・ヒックス)作品
「VERTE BRATE OF THE SACRED FISH」170φ・麻

【TAPESTRY】について

“タピストリー”とはフランス語のtapisserieを語源とする英語。日本の“綴れ織り”に相当し、今日では《紡ぐ》《結ぶ》《編む》《組む》《巻く》などの技法で表現し、素材も天然繊維はもちろん、科学繊維、金属性、鉱物性の物質に至るまであらゆる材料を駆使し、新しい「今日の造形」作品が次々と生み出されている。歴史はたいへん古く、人類の出現と共に始まったと考えられ、ギリシャ神話・旧約聖書にも登場する。タピストリー史上最も重要な位置づけとしてヨーロッパ、特にフランスの12世紀から16世紀に宗教図像として、大修道院や教会の祭壇や柱間に多く飾られ、貴族の宮殿内部の装飾としても発達し、豊かな色彩で精神的な温もりも演出して来た。17世紀になると工房も多くでき、20世紀に入るとピカソ、ミロ、マティス、レジェなどの芸術家もタピストリーで自己表現を試みるようになる。1961年にはジャン・リュサの提唱により、スイス・ローザンの「国際タピストリー・ビエンナーレ展」が開かれて以来、世界各国の作家に大きな影響を及ぼし、現代タピストリーの新しい方向性と可能性を切り開くこととなる。

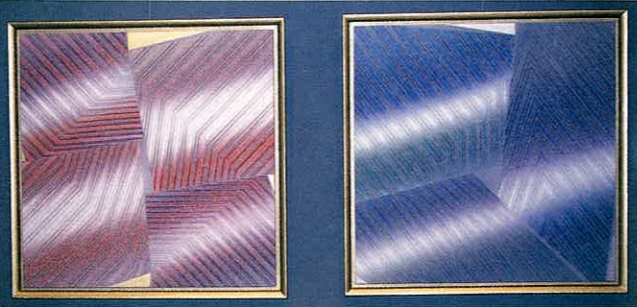


福本繁樹

「みつどもえ'94」88×88
「よつどもえ'94」88×88
トルファン綿・プラチナ箔

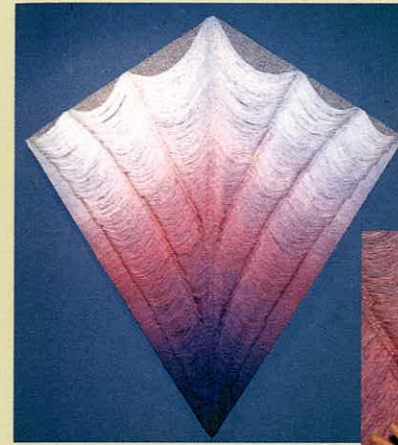


京都で着物の染めから入った福本氏は、日本の伝統的な味付による染めを中心に制作している。「タピストリーはヨーロッパ文化のものだが、海外での日本的表現は歴史的にも見られず、注目される面と全然意識されない面との両面があります。」と言う。今回の作品もスクリーンプリントによる“ろうけつ染め”だが、日本独自の「沁みる=染める」をテーマに「染色文化を世界へ向けて発信し続けたい。」と語る。



佐伯和子

「FLOWER」233×254
シルク・木綿・麻



「いままでは、自然の形(例えば水の持つリズム感とか)を連想させる作品が多く、今回は花束をイメージして作ってみました。」制作は形と色とのコンビネーションを考えることから始め、「見る方のイメージを増幅できるような作品ができればうれしいですね。」と語る。「作品として展示されることの少ないタピストリー。ロゼシアターの展示室のスペースにとっても満足している」と最後に結んでくれました。



**夏にふさわしい、爽やかな織りと色彩の饗宴。
「現代作家 タピストリー展」の
豊かな造形美との出会い。**

「タピストリー」といっても一般にはまだ馴染みの薄いものですが、ロゼシアターにはガレリア壁面の長大なタピストリーをはじめ、随所に館内を彩るアートとして展示されています。六月二十八日から七月十日迄の「現代作家タピストリー展」は「タピストリーの情報発信基地」をめざすロゼシアターの展示企画として開催されました。ここには四名の作家にインタビュースするとともに、この企画展をプロデュースした佛織絵にタピストリーについての現状をお聞きし、特集を組みました。このタピストリーが織りなす色彩美。二十一世紀の芸術に関心を持っていただけたら幸いです。

山岸征史

「陽々楽し」100×200
「陽に夢を見る」45×180
レーヨン・麻・ポリエステル



山岸氏は自然(地球と太陽を中心とした)をテーマに制作を続けている作家で、「明るく輝くもの、特に太陽には明日がある。」と言う。若い頃、沖縄の紅型に出会ったのがこの世界に入ったきっかけで、故芹沢圭介氏晩年の弟子でもある。氏は「タピストリーを芸術表現として見るのも一つの方法だが、それより作ったものは必ず飾って欲しいし、より多くの人目に触れて欲しい。コマーシャルリズムと言われても、流通の中に於ける作品を作らなければ一般の方に見て貰える機会はとても少ない」とも言う。
(※当館2F・大ホールホワイエに山岸氏の常設作品があります。)

根津りえ

「MASK DANCE」8点で構成
各90×90 綿・アクリル



(※当館2F・中ホールホワイエに根津さんの常設作品があります。)



根津さんは世界各地を旅行した先の地名や風景をテーマに制作している作家です。今回の「MASK DANCE」はブータンで見たラマ教のお祭とダンスを表現したもので、「色彩とリズム感からラマ教独特の世界を感じてくれれば嬉しいです。」現在、タピストリーの位置づけとしては設置できるスペースのある建築物がなければ普及しない状況で、「環境や条件に合わせて制作することが多いんです。今後もっと多くの建築物に使用して欲しい。」と語ってくれました。

TAPESTRY



ROSE SPECIAL FEATURE



知れば知るほど広がる楽しみ… ガレリアマップで再発見!!

人・設備がHOT!! NEO-CULTURE ZONEへようこそ!

ロゼシアター……。この名前が皆さんに愛用されてから8か月が過ぎようとしています。先日は、この建物とその周辺が静岡県都市景観賞最優秀賞に輝きました。日に日にその名声がたかまりつつある“ロゼシアター”。館内のガレリアも皆さんのアメニティ＆コミュニティーゾーンとして、まだまだご利用いただけるところがたくさんあります。ここでは読者を代表して大村さん姉妹にガレリア探訪をお願いしました。あなたもきっとまた行ってみたいくなる。そんなガレリアの魅力に迫っていただきました。

こんにちは！私たちは仲よし姉妹です。今日は富士市に馴染みの薄い姉(左側)を誘って、あこがれのロゼシアターを訪れました。評判は聞いていたけれど新しい発見がいくつもあって興味しんしんです。皆さんと一緒に歩いてみませんか？
〈富士市永田町の大村美由紀さん、洋子さん姉妹〉



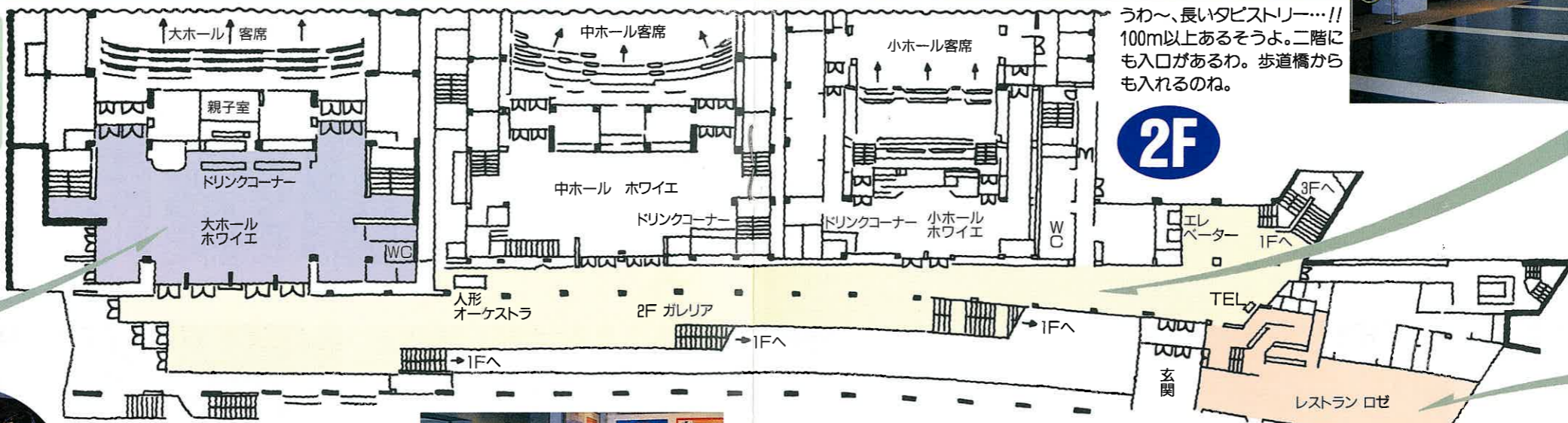
ホールの案内係の人、とても親切ね。これなら迷わず自分の席に行けるし、ドリンクコーナーもあって素敵。今度は友達を誘ってコンサートに来ようね。



スゴイ機材が揃っているのね。普通、一般の人は見学できないらしいから取材って得ね。ここで各ホールで撮ったビデオとかミュージックテープを編集するのね。ここで録音したテープで、オリジナルCDも出したそうよ。



託児室の人って明るくて、とても優しい感じ!!それに広くてきれいな。託児室のこと知らない人がけっこういるらしいよ。まえもって申し込みはいいのね。



2F

うわ〜、長いタビストリー…!! 100m以上あるそうよ。二階にも入口があるわ。歩道橋からも入れるのね。

東側から見た 2F ガレリア

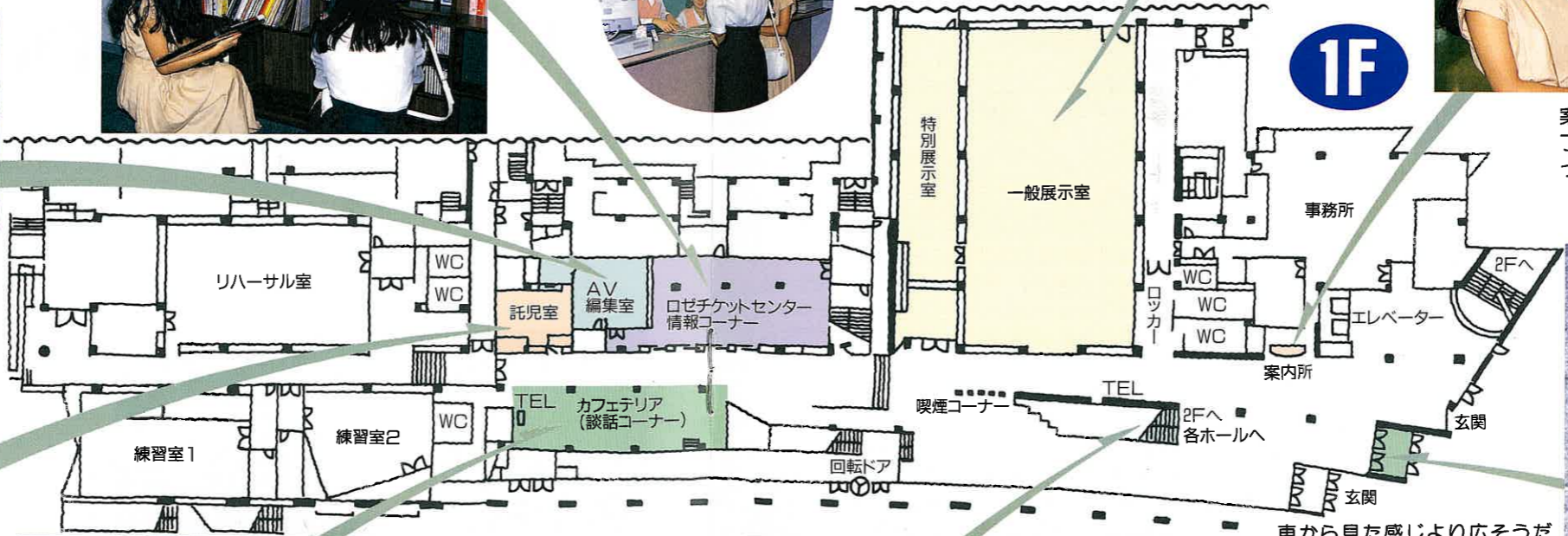


レストランも感じがいいし、晴れた日には富士山を見ながらのお食事に来ようね。

ここでチケットを買ったりいろいろな情報が分かるんだ。レーザーディスクやCD・ビデオも見れるのね。ねえ、このアンケートに呼んで欲しいアーティストを書こう。



展示室もあるのね。ねえ、タビストリー展を見て行きましょう。ここも広いのね。用途によって分割もできるそうよ。



1F



案内所の受付の人、とても丁寧で親切。気軽に聞けるって感じね。



カフェテリアにはケーキやソフトドリンクがあって、ちょっとした打ち合わせや待ち合わせにも気軽に使えるね。富士山が見えて最高ね。



…吹き抜けになっているんだ。開放的で気持ちがいい!!これがガレリアっていうんだ。どの位の長さから…階段は大理石でできているのね。

車から見た感じより広そうだし、とてもきれいな。どんなものがあるのか楽しみだわ。



『朗読』から『ドラマ』まで飛躍できるか……ですね。

怖くて不思議な物語を、なにもない空間で一人の女優が話し始める。……もつともシンプルな形式の「語り」が私たちの感覚を刺激し、感情を揺さぶる……。八月二十五日、いよいよ白石加代子さんの『百物語』をロゼシアターで体験することが出来ます。公演に先がけ、岩波ホールで、稽古中の白石さんをお訪ねし、『百物語』を始めた経緯や、語り、の魅力などを伺うことが出来ました。

白石さんは以前鈴木忠志さんの劇団SCOTにいらつしやったとお聞きしたんですが、現在お芝居の方は——
「六年前にフリーになりました。今も舞台に出ています。今年も鴻上さんの第三舞台や蛭川さんの『夏の夜の夢』に出たばかりで、十二月には野田秀樹さんの所でやる予定になっています。」
「そうしますと活動の中心は、やはりお芝居ということでしょうか。『百物語』の公演とのスタンスはどのように——

「今年は特にお芝居の話が多く来まして、『百物語』の公演が脇に追いやられた形になっていますので、来年は少し増やしたいなと思っています。『百物語』は私のライフワークだと考えていますから、お芝居との兼ね合いもあります。最低年に二回はやりたいですね。」

「百話となると大変ですね。現在、何話までやられているんですか。——
「二十四話まで終わって、この七月に新作を三話やりますから二十七話になりますね。実は、この手の話は九十



九話で止めなければいけないそうで、百話やってしまうと物の怪に憑かれるといわれているんです。新作の稽古に約二十日間位、初演は必ずこの岩波ホールから始めて、それから各地方を回るようになっていきます。その間にアンコール公演もありますから、いつ達成できるのか心配になってきますね。」

「この様な怖い話を始めたきっかけや『語り』とはどういうものなのか、白石さんなりのお考えで結構ですからお聞かせ願えますか。——

「前にNHKのラジオドラマをやっていた時、私の事務所のプロデューサーが舞台でやったら面白そうだねという話が出たんです。それで三年程前、読み語りをやろうという企画になって何かテーマを決めなければいけないこと、怖い話がいいよというのが始まりました。最初の頃は小説をそのまま振りも何もなしで読んでいたんです。

「私がほとんどと役者ですから自然に体が動きだして、朗読の形から抜け出てしまったんです。それと女が話すことの良さみたいなものがありますね。情感豊かに表現しているようで、気がつくともう後からジワジワと恐ろしくなったり……というの狙いなんです。ただ一般的に言われている怪談話とは違って、不思議な話や幻想的な話を組み合わせてバランスも考えてありますし、取り上げている小説も昔の作家から現代作家の作品までいろいろとバラエティ豊かですね。実際の舞台にはお芝居のような装置は何もなくて、効果音も開始する時の音楽以外は一切使っていません。私自信の肉声と動きだけの世界ですから、衣裳と照明がとても重要なフアクターとなりますし、大変気を使っていますね。立ったり座ったりけつこう動き回りますので、『朗読』や『語り』とも違うし、逆に台本を手に持たながらやるので、『一人芝居』とも言えないんです。ただ念頭にるのは、どこまで朗読の世界から飛躍できるかということに絞られますね。一人だけで二時間位語っていますんで、体力的にも大変なんです。また次にも聞きに来たいと絶対思っていますよ。」

「白石さんのお話によると、原作を多少カットする部分はあるもの、ほとんどそのまま読んでいるそうです。演出家と白石さんの演技(肉声)による体験がどんなに魅力的なものなのか、とても楽しみです。どうもお忙しい中をありがとうございます。」

歌舞伎の多彩さ

このコーナーは富士市文化振興財団の芸術委員の方に、その豊富な知識と経験による音楽・演劇・鑑賞論等のエッセーをリレー形式でお願いしています。今回はコラムニストの水落潔先生の登場です。

歌舞伎の人気が高まっている。日本俳優協会の調べによると、五年前に比べて年間十公演(一ヶ月公演)ほど増加したそうです。

この歌舞伎人気には様々な理由があるが、その一つに地方都市での歌舞伎公演の増加がある。このロゼシアターもそうだが、地方都市に立派な劇場が生まれはじめたのである。

歌舞伎はその名の通り、歌(音楽)と舞(舞踊)と伎(演技)が一つになった演劇なので、俳優、音楽陣を含めると大一座になってしまふ。設備の整った劇場でないといふ上、上演できない性格を持っているが、新劇場の誕生で、それが可能になったのだ。

第二次大戦の始まるころまでは、歌舞伎は日本人にとって最もポピュラーな演劇で、東京や大阪の大芝居以外に各地に様々な一座があつて活躍していたのだが、戦後、映画やテレビの普及で、そうした一座は急速に衰退していった。その結果、歌舞伎は大都市のみの演劇になっていったのだが、地方の劇場の誕生で、歌舞伎は再び日本全体の演劇に戻りつつある。多くの人々が、生の舞台に接する機会が増えたわけで、喜ばしい事である。

日まで三百九十余年の歴史を持つている。当初は踊り中心の芸能だったが、演劇としての形をととのえたのが十七世紀の末。それから二百年の歴史を持つている。その間、ずっと庶民演劇として時代とともに生きてきた。と言ふ事は、その時代その時代の流行や思想を取り入れて発展してきたわけで、一口で歌舞伎と言つても、内容は様々なのである。

歌舞伎が演劇としての形を整えたのは十七世紀末、いわゆる元禄時代である。この時期、江戸(東京)に荒事、上方(関西)に和事という歌舞伎が生まれた。荒事というのは勇壮な若者が悪人をやっつけるという勇ましさをさせる芝居で、今も歌舞伎のシンボルのようになつた隈取という化粧法や見得という演技法を生んだ。当時の日本は農業国家であつたが、荒事は五穀豊穡、国家安泰を祈る悪魔鎮めの意味を持っていたのだ。一方の和事は、消費都市であつた京都や大阪の都市の姿をバックに生まれた歌舞伎で、恋する男女の姿をリアルに描いた歌舞伎であつた。この二つの歌舞伎が、今日に至る江戸歌舞伎と上方歌舞伎の源流である。十八世紀なかばになると、上方では義太夫節という音曲に合わせて演じる人形芝居、今の文楽が大流行して、これが歌舞伎を圧倒した。歌舞伎はその戯曲を歌舞伎に移して、俳優が演じる事で人気を挽回しようとした。これが義太夫歌舞伎と呼ばれるもので、有名な「仮名手本忠臣蔵」、「義経千本桜」、「菅原伝授手習鑑」などはその代表作である。

十八世紀後半になると、三味線音楽の発展に伴い、音楽性豊かな舞踊や舞踊劇が多く作られ、大都市となつた江戸の町人美学を反映した作品が人気を集め始めた。十九世紀に入ると鶴屋南北という作者が当時の庶民の姿をリアルに描いた世話物という作品を書き始めた。ついで河竹黙阿弥が白浪物といつて盗人を主人公にした劇を書いた。ともに幕末の不安な世相を反映した歌舞伎である。

明治になつた日本は風俗が一新した。文明開化の名のもと西欧の思想が輸入され、歌舞伎も新しい時代に入った。江戸時代には武家の式楽だった能を歌舞伎化した作品(秋)に上演される「土蜘蛛」はその一つや、世界の新しい文学の思潮を反映した作品が数々書かれた。岡本綺堂の「修禪寺物語」(秋)に上演はその代表作で、自我という思想と浪漫主義という文学の流れの中で生まれた新歌舞伎である。

この様に歌舞伎には様々なスタイルの歌舞伎が内在している。そして、それぞれ独特のスタイル、台詞術、音楽美、色彩美を備えている。庶民演劇だから誰が見てもわかる一面を持つ。と同時に、深く鑑賞しようとする奥も深いのである。歌舞伎を知るにはまずその舞台に親しむことである。



女優
白石加代子
PROFILE
しらいし かよこ/1941年東京生まれ。
1967年早稲田小劇場に入団。1969年唐十郎作の岸田戯曲賞の「少女仮面」の春日野役を演じる。
1970年鈴木忠志演出の今は伝説的な舞台となつた「劇的なものをめぐってII」を演じる。
そして、この演劇で72年、73年、75年とヨーロッパ各国を回ることになる。
1974年「トリアの女」でヘカベ役を演じる。1989年劇団SCOT退団。
1990年宮本亜門演出/麻実れいとの共演「メアリー・ステュアート」(東京国際演劇祭'90)
1992年岩波ホール発、白石加代子「百物語」シリーズを始める。
1992年小沢征爾指揮、ジェシー・ノーマン主演のオペラ「オイディッパス」(斎藤記念フェスティバル)に語り手として出演。(クロシカル・ミュージック賞授賞)1992年「トップガールズ」に出演。



コラムニスト・富士市文化振興財団芸術委員
水落 潔
PROFILE
みずおち きよし/1936年大阪生まれ。
1960年早稲田大学第一文学部演劇科を卒業。
1961年毎日新聞・東京本社に入社。
以降学芸部副部長を経て、現在は特別編集委員として活躍。
同紙演劇評とコラム「演劇散歩」(土曜日朝刊)を執筆。
著書に「文楽」「上方歌舞伎」(芸術選奨文部大臣新人賞受賞)
「平成歌舞伎俳優論」「歌舞伎鑑賞辞典」などがある。
また、日本演劇協会理事、歌舞伎学会運営委員も務める。

●シリーズ・富士の文化活動に参加する人々⑧



◀市民センターステージで

富士市少年少女合唱団

ひとりひとりの力は小さくても、協力し合える仲間が何人も集まると想像以上の力を発揮します。シリーズ八回目は、そんな活動を長く続け、今注目の「富士市少年少女合唱団」の皆さんです。

子供達の表現力が、合唱を通して輝き始める。

この九月、ロゼシアターで開催する「かぐや姫フェスティバル」でオペレッタ「お姫さまの出発」で登場する富士市少年少女合唱団の練習場、富士市民センターへ向かう。ホールの扉を開けるとすがすがしい歌声が響いてきます。発足は昭和四十九年、二十年もの間子供達のまとめ役として活動している辻村典枝さん。

「少年少女合唱団といっても年長児から高校生までと年齢的にも幅が広いので、指導する前にまとめるのが大変ですね。団員六十名、しかも四〜五歳児から思春期の中高校生までとなると、単純に「大変ですね」とは言いにくくなってしまふ。でも、子供達の創造力とか可能性の大きさを考えると、楽しさと期待感でいっぱいになりますね。」と辻村先生。

活動状況は、春に日本少年少女合唱連盟の発表会、夏には静岡県少年少女合唱連盟の合同演奏会(今回は富士市の担当で、八月二十六日にロゼシアターで開催される)の他に今年には日本青年音楽祭による、海外合唱団との交歓会もあり、さらに市の行事への参加と、とても活発な動きといえます。

週一回の練習とさまざまな発表会と忙しいスケジュールの中、学校の勉強との両立について伺ってみました。「市内のいろいろな学校から集まっていますから、ひとくくりには出来ない大変さがありますが、団員同志で勉強を教え合ったり、上級生が下の子供達を見



たり、退団した〇日の方も来てくれて指導してくれますね。もともとこの合唱団が発足したのは、合唱を通して子供達が互いに高め合うことを目的としていますから、親の方達も周囲の方もとても協力的ですね。それと二十年もの歴史があります。以前団員だった子のその又子供が入団しています。連帯感も自然と強くなるようです。新入団は富士市内在住の方で、親子

同伴の受付となります。活動自体も父母会が運営にあたっています。そして、驚いたことに、振り付けは子供達自身で考えるということなんです。子供達の創造力は本当に素晴らしいですね。この歌詞とメロディーには、こうしよう、ああしようというアイデアが次々に出て来ます。この表現力の豊かさだけを見ていても、ああ、長い間やって来て良かったなと思います。」と辻村先生。最



合唱を通して子供達が輝きます!!

- 日時/毎週水曜日 PM4:00~5:00ジュニア・PM5:30~7:30シニア
- 場所/富士市平垣279 富士市民センター(旧文化センター)
- 参加対象/富士市内在住の年長児から高校生まで(親子同伴で受付できる方)
- 団費/月3,000円(遠征費及び運営費となります)
- 問い合わせ先/富士市教育委員会・文化振興課(入団申し込み書設置) 富士市津田町24の2 ☎0545-52-5513 辻村典枝

●1994年8月~10月の催し物のご案内●

財団自主事業をはじめ、一般貸出事業を含めた8月~10月分のイベントスケジュールです。これを参考に、あなただけのスペシャルプログラムを作ってください。

8 AUGUST		9 SEPTEMBER		10 OCTOBER	
日	曜日	日	曜日	日	曜日
29	日	30	日	31	日
28	土	29	土	30	土
27	金	28	金	29	金
26	木	27	木	26	木
25	水	26	水	25	水
24	火	25	火	24	火
23	月	24	月	23	月
22	日	23	日	22	日
21	土	22	土	21	土
20	金	21	金	20	金
19	木	20	木	19	木
18	水	19	水	18	水
17	火	18	火	17	火
16	月	17	月	16	月
15	日	16	日	15	日
14	土	15	土	14	土
13	金	14	金	13	金
12	木	13	木	12	木
11	水	12	水	11	水
10	火	11	火	10	火
9	月	10	月	9	月
8	日	9	日	8	日
7	土	8	土	7	土
6	金	7	金	6	金
5	木	6	木	5	木
4	水	5	水	4	水
3	火	4	火	3	火
2	月	3	月	2	月
1	日	2	日	1	日

チケットのお申し込み・お問い合わせは
ロゼ・チケットセンター
☎0545-60-2500
受付時間/9:00~19:00

プレイガイド

- すみや 富士本店 ☎(0545)63-2233
- 富士市役所前店 ☎(0545)53-5800
- 富士市民センター ☎(0545)61-6262
- ラ・ホール 富士 ☎(0545)53-4300
- チケットセンター(沼津) ☎(0559)61-2405
- 静岡・浜松店でも取り次ぎます。
- カフェ書店 藤岡店 ☎(0545)71-9592
- 富士宮・宮原店 ☎(0544)24-7160
- ユニバービスカウンター 吉原店 ☎(0545)51-9027
- 吉原店 ☎(0544)24-0255
- 丹沢楽器店 富士店 ☎(0545)52-1586
- 吉原商店街虹いろーどホール ☎(0545)51-5227

富士市文化情報誌「ロゼ」
一九九四年七月発行(第八号)

発行
財団自主事業
富士市文化振興財団
〒四一六
富士市藤原一三〇七番地の八
TEL(〇五四五)六〇一一二五(一〇代)

企画・編集・制作
財団自主事業
富士市文化振興財団
藤原エイベイ アタゴオル

●展示室のご案内●

展示期間	展示室	展示内容
8/3~8/8	一般	自然環境パネル展
8/21~8/30	一般	江戸浮世絵展
9/10~9/11	一般	富士市小中学校校作品展
9/14~9/18	一般	かぐや姫フェスティバル「かぐや姫紙人形展」
9/21~9/25	一般	富士市総合文化祭 日本舞踊 写真展
9/27~9/29	一般	富士市総合文化祭 洋楽演奏 毛筆展
10/7~10/9	特別	小野村・美恵子南展
10/12~10/21	特別	富士市福祉展
10/27~10/31	特別	県立美術館特別展

このイベントここが見どころ

新竹取物語 かぐや姫フェスティバル
9月10日~18日の間に、オペレッタ、名曲コンサート、能、紙人形展と「かぐや姫」にちなんだ各種イベントが繰り広げられます。どうぞお楽しみに。

創作オペレッタ「お姫さまの出発」
9月10日(出) 中ホール
開場/18:00 開演/18:30
入場料 1,000円 (全席自由)

能「かぐや」
9月18日(日) 中ホール
開場/13:30 開演/14:00
入場料 S席: 4,000円
A席: 3,000円
学生(小・中・高): 1,500円 (全席指定)

名曲コンサート「月とかぐや姫の夕べ」
9月18日(日) 小ホール
開場/18:30 開演/19:00
入場料 一般: 2,500円
学生(小・中・高): 1,000円 (全席指定)

かぐや姫紙人形展
9月14日(水)~18日(日)
特別・一般展示室
8:00~19:00 最終日/17:00終了
入場無料

【編集後記】

ことしの夏は久しぶりに暑さが戻った。目の前の市民ホールにはぎやかな子どもたちの声であふれている。一方、本号の表紙、涼しげな水音をイメージして、須津川溪谷の滝をバックにロゼのピアノ、スタインウェイを重ねてみた。澄みきったピアノの音は、滝の音と絶妙なハーモニーを奏でる。ここだけのピアノコンサートを聴いていただきたく、この夏号は各ページとも取材記事で埋まった。中でも木の美ナナさんと白石加代子さんの話は暑さを吹き飛ばす勢いで、プロ根性にあふれていた。お二人とも当市へは初めて、とにかく目一杯ロゼのステージでお客様を楽しませたいと語ってくれた。乞う、ご期待である。